

名古屋市プラスチック削減指針(案) ～そのプラスチックは必要 ですか?～ に対する市民意見の内容及び市の考え方

「名古屋市プラスチック削減指針(案) ～そのプラスチックは必要ですか?～」に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただいたご意見とそれに対する本市の考え方を公表いたします。なお、ご意見の内容については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文の一部を要約、分割するなどして掲載させていただきましたので、ご了承ください。

令和5年3月

<市民意見募集の概要>

●募集概要

令和5年1月30日(月)から2月28日(火)まで

●提出状況

提出者数:31人

提出方法:郵送(5人)、FAX(11人)、電子メール(8人)、持参(7人)

●意見の内訳合計 109 件

はじめに	5 件
1 名古屋市を取り巻く現状	32 件
・プラスチック問題とその影響(11 件)	
・名古屋市の現状と課題(21 件)	
2 持続可能なプラスチックの利用に向けたアクション	70 件
・理想の状態(大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却した姿)(6 件)	
・持続可能なプラスチックの利用に向けたアクションの概要(57 件)	
・市役所による持続可能なプラスチック利用に向けた取組み例(7 件)	
おわりに ～大量生産・大量消費・大量廃棄型社会からの脱却～	2 件
資料	0 件

名古屋市環境局ごみ減量部減量推進室

電話: 052-972-2398

FAX: 052-972-4133

電子メール: a2378@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

目次

はじめに	5 件	1
総論(5 件)		1
1 名古屋市を取り巻く現状	32 件	2
プラスチック問題とその影響		2
(1)プラスチックに関する3つの問題(11 件)		2
総論 3 件		2
■ 1)海洋汚染の問題 4 件		2
■ 2)大量生産・大量消費・大量廃棄による資源枯渇の問題 3 件		3
■ 3)地球温暖化の問題 1 件		3
名古屋市の現状と課題		4
(1)市民・事業者の意識と行動(1 件)		4
■ 市民アンケート調査の結果 1 件		4
(2)流出したプラスチックごみの状況(15 件)		4
(3)ごみ処理における状況(4 件)		6
コラム プラスチックの資源循環に関する国の動き(1 件)		6
2 持続可能なプラスチックの利用に向けたアクション	70 件	7
理想の状態(大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却した姿)		7
理想の状態(6 件)		7
持続可能なプラスチックの利用に向けたアクションの概要		8
総論(10 件)		8
アクションの前に(2 件)		9
Action1 減らす プラスチックの使用を減らします(21 件)		9
Action2 大切に使う プラスチック製品を長く大切に使います(2 件)		11
Action3 循環させる プラスチックが循環するように分別し、再生商品を選びます(14 件)		11
Action4 置き換える プラスチックを紙などの代替素材やバイオマスプラスチック等に置き換えます(7 件)		12
コラム 生分解性プラスチックを考える(1 件)		13
市役所による持続可能なプラスチック利用に向けた取り組み例		13
総論(7 件)		13
おわりに	～大量生産・大量消費・大量廃棄型社会からの脱却～ 2 件	14
総論(2 件)		14

はじめに 5 件

総論(5 件)

【市民意見の概要】

- ・ プラスチック製品による恩恵を長年受けてきたが、プラスチックの負の部分が大きく浮き出てきたため世界的な問題になったと感じている。
- ・ 地球温暖化などの問題がプラスチックだけによって引き起こされていると誤解を与える可能性があるのではないか。(2 件)
- ・ 環境局のマスコットキャラクターである「シャチのジュンちゃん」を登場させて普及に取り組んではどうか。
- ・ 事実を述べるだけの前半部分が長く、親しみづらいため簡略化してはどうか。

【市の考え方】

プラスチック問題は世界中で注目されており、それによる国等の動きを反映して本市でも指針の策定に至りました。プラスチック問題が注目され始めたのは最近のことですが、それは単に問題が顕在化したものであり、過去から同様の問題は発生していたと考えています。

本指針によりプラスチック問題を知り、市民・事業者の皆さまが取り組むきっかけとしてもらうとともに、市民・事業者・行政が同じ方向性に向けて取り組むための基本的な考え方をまとめることで、今後の市の施策検討に活かしていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ ここで取り上げた 3 つの環境問題について、プラスチックのみが原因という誤解を防ぐために「プラスチックが関係する環境問題」という表現に変更しました。
- ・ 名古屋市環境局のマスコットキャラクター「シャチのジュンちゃん」のイラストを裏表紙デザインの中に取り入れました。
- ・ 文章の趣旨は変更せず、冒頭部分を簡略化しました。

1 名古屋市を取り巻く現状 32 件

プラスチック問題とその影響

(1)プラスチックに関する3つの問題(11 件)

総論 3 件

【市民意見の概要】

- ・ イラストではプラスチックが地球温暖化にどう関係しているかが分かりづらい。
- ・ 海洋汚染の問題から下のイラストの現象が起こっているように見える。
- ・ 資源枯渇の問題のイラストは「0%」よりも「ゼロ」とした方が分かりやすいと感じる。

【市の考え方】

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ P.2 のイラストについて、「大量生産・大量消費型のライフスタイル」が 3 つの問題に関係していることを示すよう、位置関係を変更しました。
- ・ P.2 の「資源枯渇の問題」のイラストについて、「0%」から「ゼロ」という表現に変更しました。

■ 1)海洋汚染の問題 4 件

【市民意見の概要】

- ・ マイクロプラスチックが有害な化学物質を吸着し、食物連鎖を通して人体に蓄積する影響について、より詳細に記載するとともに、有害な化学物質として代表される PCB や DDTs などが引き起こした過去の事故について解説することでその危険性を強く訴える必要がある。
- ・ プラスチックによる海洋汚染の現状について以下の内容をより具体的にその根拠とともに示し、市民全体が納得した上で実践・協力できる内容としてほしい。
 - マイクロプラスチックの世界での発見例
 - マイクロプラスチックが吸着する有害物質の例
 - 海洋へのプラスチック流出量の推計根拠
 - 使い捨てプラスチックの製造・販売を法律で禁止する国の例
- ・ 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」達成のために国が行う規制等の動向を詳しく説明してほしい。また、不十分と考えるのであれば規制強化について国への働きかけの必要についても記載する必要がある。
- ・ ウミガメのお腹から出てきたプラスチックの写真におけるウミガメの種類は何か。ウミガメの中でも主食とするものの違いにより、被害を多く受けている種類もある。

【市の考え方】

マイクロプラスチックが生態系に与える影響については様々な調査・研究がなされており、本指針に掲載した内容は、巻末の参考文献のほか、国の公表資料や編集にご協力いただいた有識者のご意見を踏まえて作成したものです。

マイクロプラスチックによる有害物質の吸着及び生物への移行についての調査・研究結果から、人体に危険な影響を与える可能性については認識していますが、実際にどのような影響が現れるかについては研究途上とも認識しており、過度に不安を煽ることにはならないよう、慎重に伝えていきます。

また、本指針ではプラスチック問題の全体像を分かりやすく知ってもらいたいと考えており、詳細な情報についても他の発行物などと組み合わせて分かりやすい周知に努めていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 「ウミガメのお腹から出てきたプラスチック」の写真にウミガメの種類(オサガメ)を追加しました。

■ 2)大量生産・大量消費・大量廃棄による資源枯渇の問題 3件

【市民意見の概要】

- ・ 有効利用の中で熱回収として利用される割合を記載した方が伝わりやすいのではないか。
- ・ リサイクルと熱回収の優先順位をはっきり記載すべきではないか。

【市の考え方】

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 有効利用の中で熱回収が占める割合を記載する表現に変更しました。
- ・ 熱回収よりもリサイクルを優先することを伝える表現に変更しました。

■ 3)地球温暖化の問題 1件

【市民意見の概要】

- ・ プラスチックは焼却「等」により処理された後も～…と記載があるが、「等」は何を指しているのか。

【市の考え方】

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 焼却「等」には、本市の可燃ごみ処理施設では焼却及び溶融処理を行う工場がある、といった内容を含むことを意図したのですが、焼却として考えることとほぼ同様であり、簡潔にするため「等」を削除しました。

名古屋市の現状と課題

(1)市民・事業者の意識と行動(1 件)

■ 市民アンケート調査の結果 1 件

【市民意見の概要】

- ・ アンケート結果からは関心と理解の乖離という状況は読み取れないのではないかな。

【市の考え方】

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ アンケート結果から読み取れるポイントについて、関心を行動に繋げる必要性を伝える表現に変更しました。

(2)流出したプラスチックごみの状況(15 件)

【市民意見の概要】

- ・ 事業者の責任において流出したプラスチックごみ回収に継続して取り組むことが必要である。
- ・ マイクロプラスチックによる海洋汚染は大きな衝撃を与えているため、ウミガメの研究に取り組む名古屋港水族館や藤前干潟をプラスチック削減のシンボル・情報発信拠点に位置付けてはどうかな。
- ・ 藤前干潟の調査において採取したマイクロプラスチックが吸着した有害物質の分析結果があれば記載してほしい。
- ・ 藤前干潟クリーン大作戦の参加人数の実績を記載してほしい。
- ・ 藤前干潟の調査の実施日時を記載してほしい。
- ・ マイクロプラスチックの調査結果では調査範囲が非常に狭く、藤前干潟全体を推計することはできない内容である。
- ・ 藤前干潟の調査で多く確認された徐放性肥料の殻について、どうしてこのように広く使用されているのか、国や農業関係団体などが問題をどのように捉えて動き始めているのかを記載してほしい。
- ・ 藤前干潟で確認されたレジンペレットは、発生源がプラスチック成型事業者やペレット輸送過程などはっきりしており、国や業界団体が取組みを進めるとともに流出したペレットが引き起こす影響についても研究が進んでいる。レジンペレットの流出原因や環境中での特徴などを詳細に記載してほしい。
- ・ 徐放性肥料の殻やレジンペレットの対策について国や関係団体へ働きかけることが必要である。
- ・ 徐放性肥料の殻は時間が経てば無くなるという認識だったが、溶けた後にも影響が残るものなのか。
- ・ 海洋汚染の問題は名古屋市のみならず河川流域全体が関係するため、県レベルなどでの対策も

必要である。

- ・ 漂着ごみの調査では、その発生源を探るために用途別の分類を行ってはどうか。
- ・ P.8 の写真からはどれがマイクロプラスチックが分かりづらい。
- ・ マイクロプラスチックがどんなものか(5mm 以下のもの、など)を記載すると分かりやすい。
- ・ 千葉研究室の調査結果から読み取れることとして、古いペットボトルが残り続けている点も重要と考える。

【市の考え方】

本市ごみ処理行政の象徴でもあり、市民に身近な自然環境である藤前干潟の漂着ごみの状況を伝えることで、より実感をもってプラスチック問題を理解してもらえるのではと考え、地域で保全活動を行っている団体や学生の協力も得て漂着ごみ及びマイクロプラスチックの調査を実施しました。マイクロプラスチック調査結果では藤前干潟全体を推計するには調査範囲が十分ではないと認識していますが、調査には多くの方々のご協力が必要であるなどの課題があると考えています。(漂着ごみ調査は令和 3 年秋の藤前干潟クリーン大作戦と同日に実施し、この時の藤前干潟クリーン大作戦参加者は 1,111 名と聞いています。)

調査の結果からごみの大半を容器包装類が占めていることや、多数かつ多種類のマイクロプラスチックが存在していることが判明しました。なお、採取したマイクロプラスチックの有害物質吸着状況分析は実施していません。マイクロプラスチックの中で特に多く確認された徐放性肥料については、肥料の散布回数を減らすことで農家の方々の負担軽減に大きく寄与している一方で、使用後の殻が環境中に滞留し、他のマイクロプラスチックと同様に様々な影響を引き起こす可能性があるものと認識しています。現在、国や関係団体において対策が進められていますが、本市としても農家の皆さまに必要な情報をしっかりと伝えていきます。

これらの状況を踏まえ、国や県、また本市関係部署とも連携を図りながら漂着ごみ問題に取り組み、藤前干潟の保全に関係の深い施設や市民団体とも協力し、より効果的な周知・啓発について検討していきます。

また、海へのごみの流出を防止するクリーン活動も重要な行動であると考えており、街中や藤前干潟の美化活動を関係団体や事業者の皆さまと連携しながら進めるとともに、ご意見のあった内容について今後の事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 藤前干潟で実施した漂着ごみ及びマイクロプラスチックの調査日を記載しました。
- ・ P.8 のマイクロプラスチック写真について、写真中のマイクロプラスチックを枠で囲み、マイクロプラスチックがどのようなものかの説明を記載しました。
- ・ P.10 の庄内川・新川河口付近に漂着したペットボトルの年代調査結果について、古いペットボトルが環境中に滞留していることを伝える表現に変更しました。

(3)ごみ処理における状況(4 件)

【市民意見の概要】

- ・ 名古屋ごみレポートにあるように、市の現状についてもっと詳しい数値を示すべきである。
- ・ 国の地球温暖化対策計画では西暦を使用しており、西暦で統一した方が分かりやすい。
- ・ 国の動きを反映し、「低炭素都市 2050 なごや戦略」における目標値を見直す必要がある。
- ・ グラフ名称として「名古屋市のプラスチック類ごみ処理量」とあるが、グラフで示しているのはプラスチック類のみのごみ処理量ではない。

【市の考え方】

ごみ処理事業においてプラスチック類の焼却が温室効果ガス排出の大部分を占めており、プラスチックを廃棄する影響の重要な点として特に伝えたいと考えています。これらの主立った情報を記載し、本指針ではプラスチック問題の全体像を分かりやすく知ってもらいたいと考えており、詳細な情報についても他の発行物などと組み合わせて分かりやすい周知に努めていきます。

また、温室効果ガス排出量に関する 2050 年の目標については、現在進めております地球温暖化防止に係る実行計画の改定作業の中で検討しており、実行計画の改定は令和 5 年度を予定しています。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 国の温暖化対策計画における目標年次について、西暦を併記しました。
- ・ グラフ名称を「名古屋市のごみ処理量」に変更しました。

コラム プラスチックの資源循環に関する国の動き(1 件)

【市民意見の概要】

- ・ 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」制定時に付与された農業用器具等に使われるプラスチックによる環境汚染に取り組むことの必要性に関する付帯決議内容についても記載すること。

【市の考え方】

農業用器具等に使われるプラスチックについても、同じプラスチック問題に関係するものと認識しており、徐放性肥料等の農業で使用されるプラスチックについて、国や業界団体において取り組む内容など、本市としても農家の皆さまへ必要な情報をしっかりと伝えていきます。

2 持続可能なプラスチックの利用に向けたアクション 70 件

理想の状態(大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却した姿)

理想の状態(6 件)

【市民意見の概要】

- ・ 市民のライフスタイルにおいて、コンビニエンスストアの影響が非常に大きいため、業界との協働によって問題に取り組むことが必要であり、コンビニエンスストアに重点を置いたイラストにしてはどうか。
- ・ 清掃活動のイラストにはごみが多い野球場の駐車場や小学校での学習の要素を入れてはどうか。
- ・ イラストでの説明が分かりやすく、かわいらしいと感じた。一目で伝わりやすいよう、文字を少な目でなごやかな気持ちになるイラストにしていてもらいたい。
- ・ P.14-15 のイラストと P.18-25 のイラスト内容がほとんど同様であるため、どちらか片方にするとういのではないか。
- ・ スマートフォンの利用が日常に浸透してきており、スマートフォンを活用している様子を加えてはどうか。イラスト中にスマートフォンでシェアリングサービスなどを活用している様子としてはどうか。
- ・ イラストの説明が「～します」と「～しています」という表現が混在するため、統一してはどうか。

【市の考え方】

理想の状態のイラストにおいて、プラスチック問題の解決に向けた行動例の全体イメージを分かりやすく伝えていきたいと考えています。本指針によってプラスチック問題を身近に感じてもらい、取り組みを進めるきっかけとしてもらいたいと思います。

また、コンビニエンスストアなどの市民の皆さまの生活に密着している業界との連携など、本市としても市民・事業者の皆さまに身近な部分で取り組みが進むよう、今後の事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ スマートフォンを使用してフリマアプリやシェアリングサービスを活用しているイラストを追加しました。
- ・ P.14-15 のイラストでは理想の状態を表しているため「～しています」に、P.18-25 のイラストではこれからの行動であるため「～します」に表現を変更しました。

持続可能なプラスチックの利用に向けたアクションの概要

総論(10 件)

【市民意見の概要】

- ・ 消費者・事業者・行政が同じ方向に向けて取り組んでいくことが必要である。
- ・ プラスチック削減は大切なことだと考えており、地球規模での問題となっていることから一つの国だけでは対処できない状態と感じている。
- ・ 「指針」ではなく「計画」とし、具体的な数値目標を定め、プラスチック一括収集による目標も示すとともに、PDCA サイクルを回しながら取り組むことが必要である。(2 件)
- ・ プラスチック削減は喫緊の課題であり、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から循環型の社会へ変わっていくために名古屋市が積極的に取り組むことを歓迎する。
- ・ 4 つのアクションは分かりやすい。
- ・ 4 つのアクション全体として、事業者の拡大生産者責任を明確にした上での協働が必要であり、市は監視と支援を進めることが必要である。
- ・ 例えば食品トレイに装飾のためになされる印刷のように、環境負荷を高め、リサイクルの阻害となることを減らしていく必要がある。
- ・ 概要版にある表現の市が目指す下支えがどういったことを行うのか分かりづらい。
- ・ 市施策の方向性において、率先垂範という言葉はあまり市民に馴染みがない。また、以降のページも含め、市の施策は「～します」というように進めていく意思が見えるような表現にしてほしい。

【市の考え方】

市民・事業者の行動メニューにある 4 つのアクションについて、Action1「減らす」を最優先とし、それぞれのアクションを推進していきます。市民側は選択するものが無ければ行動を起こすことは困難ですし、事業者側は消費者となる市民の選択が無ければ環境配慮製品・サービスを提供し続けることは困難です。同じ方向性を持って各主体が行動を起こすため、市民・事業者の環境負荷低減の取組みを支援する施策を実施することが行政の役割と認識しており、拡大生産者責任の観点なども今後の行政計画や事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

様々な場面において「本当に必要か」という視点を持って行動に繋げてもらうことが重要と考えており、本指針はプラスチック問題の解決に向けて市民・事業者が理解を深め、取り組むきっかけとしてもらうとともに、本市のプラスチック問題に対する考え方をまとめたものです。この考え方を基に、詳細な施策を記す各行政計画において、適切な目標値を掲げてその推進を図っていきます。

プラスチック問題は世界的な課題でもあり、国際的な議論がなされており、世界中で一丸となって取り組んでいくことが必要です。その中で本市ができることについて積極的に取り組んでいきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 市施策の方向性を分かりやすい表現に変更するとともに、市の施策に関して「～します」という

表現に変更しました。

アクションの前に(2 件)

【市民意見の概要】

- ・ 清掃活動を通して若い大人のモラル低下を実感しており、モラル・ルールの啓発は小学生から行う必要がある。
- ・ 大々的に市民ボランティアを募り、漂着ごみの回収活動を行うために、楽しみながらごみを回収できる仕掛けを実施してみてはどうか。

【市の考え方】

若い世代から環境問題について考えてもらうことを目的として、若年層にターゲットを向けた SNS 等を活用した啓発や、小学生向けの環境教育に取り組んでおり、ご意見のあった清掃活動によって漂着ごみの状況に実際に触れてもらうことなどについて今後の事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

Action1 減らす プラスチックの使用を減らします(21 件)

【市民意見の概要】

- ・ 学術関係機関とのさらなる連携が必要である。
- ・ 普段の生活の中でプラスチックの必要性を考え、なるべく余分なものは受け取らず、別なものへ代替していくことが必要である。(3 件)
- ・ 使い捨てプラスチックの製造・販売を禁止する法律を整備することが必要である。
- ・ 手軽に手に入り、簡単に手放せる安価さだけを目指した製品の購入について考え直す必要がある。
- ・ 市民に対する啓発のみではなく、事業者に対して「つくらない」ための働きかけを促す仕組みが必要である。
- ・ 市の施策には言葉だけが並べられてしまっているように感じる。事業者と協力して早急に素材転換を促し、そのための研究も必要である。全国で一斉に取り組むための組織を作らなければ事業者の取組みは進まないと考える。
- ・ 今後の生活を見直すための情報発信を2R推進実行委員会と協力して行う必要がある。
- ・ マイバッグ、マイボトルの利用を義務付け、無償提供されるプラスチック製品の有料化及び金額をさらに上げる、デポジット制の導入なども必要ではないか。こういったことを国や企業と連携して進めていく必要がある。(3 件)
- ・ 市民の行動メニュー例と事業者の行動メニュー例は同じ内容が多いため、どちらか片方でよいのではないか。
- ・ 行動メニュー例の中にイラストで記載がないものがある。

- ・ 行動の効果の数値根拠を記載してほしい。
- ・ 行動の効果は市民 1 人 1 日当たりの数値を示し、どういった行動によって達成されるかを記載すると分かりやすい。
- ・ 行動の効果は焼却されると費用がかかってしまうという表現よりも、焼却量を削減することで費用が削減できるという積極的な表現としてはどうか。
- ・ 会議で提供するものや、自宅でまとめ買いするペットボトルはラベルなし商品を選択することで、排出の際にラベルはがしていないものも減ると考える。
- ・ 感染症拡大の影響により個包装が増加していると感じており、必要なものについては代替素材への置き換えが必要である。
- ・ 事業者と連携して中学生にマイボトルを配布し、給水スポットを検索できるアプリを開発するといったマイボトル利用促進事業を実施してはどうか。
- ・ 行動の効果にある「新しいボトル」はどのようなボトルを想定しているのか。

【市の考え方】

プラスチックには有用な面もあり、私たちの生活になくてはならないものであるため、完全に無くしてしまうことは困難ですが、使い捨てのものについては積極的に削減する必要があると考えています。必要性が薄いものを減らすことは環境面だけでなく、生活の中で処分の労力軽減に繋がるなどの効果も見込まれます。

どうしても必要なものとそうでないものを考えてもらい、どうしても必要なものについては素材代替を検討するなど、環境配慮を製品選択の際の重要な要素としてもらうことが必要と考えています。製品選択においては市民の行動と事業者の行動はどちらか片方では成り立たないものが多く、同じ方向性を持った両面からの行動メニュー例及び代表的な内容のイラストを示しています。

これらの取組みを推進するため、消費者・事業者・学識者・行政が参画し、本市独自のレジ袋有料化の仕組みを形成した2R推進実行委員会という協働の場を活用して検討を進めるとともに、ご意見のあった内容について今後の行政計画や事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

行動の効果において示した「1 週間に 1 回」の 4 つの行動では 1 週間当たり 42.5g、「1 ヶ月に 1 回」の行動では 1 ヶ月当たり 44.7g の削減が見込めると試算しており、これらの行動を 1 年間市民の皆さま全員が取り組んだものとする約 6,000 トンのプラスチック削減となると試算しています。詳細の情報についても他の発行物などと組み合わせて分かりやすい啓発に努めていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 行動の効果について、6,000 トンのプラスチックが焼却されないことによる CO₂ 排出量や処理経費の削減効果を表す表現に変更しました。
- ・ 行動の効果のボトルについて「洗剤などはボトルを買わず〜…」という表現に変更しました。

Action2 大切につかう プラスチック製品を長く大切に使います(2 件)

【市民意見の概要】

- ・ 市の施策で具体的なリユース推進施策を示すことが必要である。
- ・ 行動の効果の 2 段落目は一文が長く読みづらく感じる。

【市の考え方】

具体的な市の施策については、本指針の考え方を基に今後の行政計画や事業実施の中で検討していきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 行動の効果 2 段落目について、文章の区切りを変更しました。

Action3 循環させる プラスチックが循環するように分別し、再生商品を選びます(14 件)

【市民意見の概要】

- ・ 公共施設で資源回収を実施するなど、回収拠点を増やしてはどうか。(2 件)
- ・ リサイクルのために回収しても、その多くが熱回収に利用され、循環利用が進んでいない現状を正確に伝える必要がある。
- ・ リサイクルを推進するための具体的な施策を記載してほしい。(2 件)
- ・ 市民及び事業者の行動メニュー例にある「劣化しやすいプラスチック製品は屋外に放置しない」は、循環させるという趣旨からはずれるのではないかと。また、劣化しやすいものとそうでないものを見分けることは難しい。(2 件)
- ・ 行動の効果で示す各工程の CO₂ 削減効果では、焼却工場で行っている熱回収は考慮しているのか。また、製品の製造だけで焼却を上回る CO₂ が排出されているというように見える。算出根拠や対象範囲を分かりやすく示してほしい。(2 件)
- ・ 事業系プラスチック廃棄物をリサイクルする仕組みづくりのためのモデル事業を実施してはどうか。
- ・ ケミカルリサイクルでは残さ発生が少ないというメリットがあるが、大きなプラントが必要などの課題があるため行政の協力が必要である。
- ・ 事業者による自主回収の取組みが現れてきており、これを推進する必要がある。
- ・ マテリアルリサイクルにおいて残さ要因となる食品等による汚れた部分を分離できる弁当容器の利用拡大に取り組んでどうか。
- ・ プラスチック類の焼却量を減らすため、可燃ごみとして収集されている品目についてもリサイクルを進める取組みが必要である。

【市の考え方】

プラスチック類のリサイクルについて、事業者が排出するプラスチック使用製品産業廃棄物については熱回収が主ですが、本市が収集するご家庭から排出されるプラスチック製容器包装やペットボト

ルについてはその多くは原料としてリサイクルされ、どうしても利用が難しい残さ物についてのみ熱回収されています。市民の皆さまの分別意識を削ぐことにならないよう、また事業者の皆さまにはリサイクル利用を高めてもらえるよう情報提供をしていきます。

行動の効果については、本市が保有するデータに加え、巻末の参考文献にある海洋プラスチック問題対応協議会が公表するデータを基に試算したものです。「焼却」の中にはプラスチックの焼却・焼却工場での熱回収・溶融炉で使用される副資材(コークス)の使用量による影響を、「分別収集」の中には収集車両の走行・収集後の選別と保管による影響を、「天然資源の投入」及び「リサイクル品の製造」の中には製造から廃棄までの影響を含めて試算したものです。

また、令和6年度からご家庭から排出されるプラスチック製容器包装とプラスチック製品の一括収集化によるリサイクル推進を予定しているほか、ご意見のあった内容について今後の行政計画や事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 行動メニュー例から「劣化しやすいプラスチック製品は屋外に放置しない」を削除しました。
- ・ 行動の効果について、それぞれの工程で含む内容が分かりやすいように表現を変更しました。

Action4 置き換える プラスチックを紙などの代替素材やバイオマスプラスチック等に置き換えます(7件)

【市民意見の概要】

- ・ 「置き換える」は市民側で取り組むことが難しい。できることから確実に取り組んでいきたい。
- ・ 使用頻度の高いプラスチック製品を優先的に環境負荷の少ない製品へと置き換えるための開発支援が必要である。
- ・ 「置き換える」は今後重要な取組みであり、市としては地元企業に対して技術面と資金面の両面での支援を進めることが必要である。
- ・ 代替素材への置き換え効果の正しい理解というものがどういったことを指すのか分かりづらい。
- ・ バイオマス原料の利用拡大は食料供給と競合してしまう危険性があり、こういった危険性を認識してより正しい製品選択を行う視点を育てるための啓発を実施する必要がある。
- ・ 紙パックの一層の活用を図ってほしい。
- ・ バイオマスプラスチックの利用・開発をさらに推し進めてほしい。

【市の考え方】

代替素材への置き換えは、例えばプラスチックをバイオマスプラスチックに置き換える場合、CO₂排出量削減に寄与するものと考えますが、海洋汚染対策への効果は無いものがあるほか、バイオマス原料としての利用と食料供給との競合も含め、その製品が訴える「環境配慮」がどういった効果があるものなのかを見極める必要がある難しいものであると考えており、必要に応じて他の発行物などと組み合わせて分かりやすい啓発に努めていきます。

また、市民側は選択するものが無ければ行動を起こすことは困難ですし、事業者側は消費者とな

る市民の選択が無ければ環境配慮製品・サービスを提供し続けることは困難です。同じ方向性を持って各主体が行動を起こす必要があると考えています。

環境負荷の少ない製品の開発などの企業支援などについて今後の行政計画や事業実施の中で検討を進める際の参考としていきます。

コラム 生分解性プラスチックを考える(1 件)

【市民意見の概要】

- ・ 生分解性プラスチックの利用については、適正に処理をして流出させなければ置き換えなくとも問題がないため、指針の中で解説しているように利用促進のみが問題解決策ではないという点に注意が必要である。

【市の考え方】

代替素材への置き換えは、ご意見のあったとおりその製品が訴える「環境配慮」がどういった効果があるものなのかを見極める必要がある難しいものであると考えており、必要に応じて他の発行物などと組み合わせて分かりやすい啓発に努めていきます。

市役所による持続可能なプラスチック利用に向けた取組み例

総論(7 件)

【市民意見の概要】

- ・ 小中学生の環境教育の一環としてプラスチック問題について取り上げ、小さい頃から環境に対する意識を高めることができるような支援策が必要である。(4 件)
- ・ 新年の熱田神宮周辺では地下道にペットボトルやレジ袋などのごみが散乱するため、こういった時期に重点的な PR を行うことが必要である。
- ・ 市役所による率先垂範の内容が不十分である。
- ・ アプリによる分別の案内に「さんあ〜る」という具体名称を出して普及に取り組んではどうか。

【市の考え方】

次世代の社会を担っていく若者や子どもに対する環境教育は非常に大切だと考えています。これまでも主に小学4年生を対象とした冊子「ごみと資源とわたしたち」においてプラスチック問題を取り上げているほか、出前授業や環境デーなごやなどのイベントの機会を捉えて伝えており、若年層にターゲットを向けたSNS等を活用した啓発や環境教育においてもプラスチック問題についてしっかりと説明を行っていきます。

また、分別の案内には「さんあ〜る」も含め名古屋市公式 LINE などスマートフォンなどで気軽に利用しやすい媒体の活用を進めています。それぞれについて普及が進むよう、個別に広報を実施するとともに、その他の具体的な施策について今後の事業実施の中で検討を進めていきます。

おわりに

～大量生産・大量消費・大量廃棄型社会からの脱却～ 2 件

総論(2 件)

【市民意見の概要】

- ・ 市民の消費行動に変革を迫る啓発も大切である。
- ・ 国が推し進めている3R+Renewable や環境問題に深く関係する SDGs との関連性を記載すべきではないか。

【市の考え方】

プラスチックが関わる問題の解決に向けて必要な行動は、これまでも進めてきた3R(+Renewable)の考え方に基づくものであり、また、問題の解決のためには、市民・事業者それぞれが両面から同じ方向性を持って取り組む必要があると考えています。これは私たちが今取り組むべき目標である SDGs の考え方における、目標 17 にある「パートナーシップによる目標達成」にも繋がるものです。

また、根底にある大量生産・大量消費・大量廃棄型社会を変えていく可能性の一つとして、「エシカル消費」の考え方を紹介しており、消費者である市民の意識や行動の変化は、社会のあり方を変えていく大きな力を持っていると考えています。消費者一人ひとりが、何が大切なのか、何が必要なのかを正しく考えられるような啓発をこれからも進めていきます。

ご意見を踏まえて、以下の点を変更しました。

- ・ 3R+Renewable や SDGs との関連性を加えた表現に文章を変更しました。